学位論文要旨

学位論文題目

工芸美術教育における中国伝統工芸の伝承・発展に関する研究
―農村職業学校工芸美術教育を巡って―

中国では、伝統工芸は、百年以上の歴史を持ち且つ技術が優れ、代々継承され、高水準の製作過程を有し、天然素材を用いて製作された鮮明な民族スタイルと地域の特色を有し、国内外で高く評価されている手工芸品と技芸を指す。グローバル化の進展と生活様式の激変により、中国伝統工芸の伝承・発展は後継者の不足、地域的特徴の弱さ、現代性の欠如などの問題を抱えている。

伝統工芸の伝承・発展のために、工芸美術教育を改善・充実させることは一つの重要な道だと考えられる。中国現代工芸美術教育は日本の美術教育とヨーロッパのデザイン運動の影響の下で発展し、国際様式となる工芸美術教育の方法がもたらされた。しかしながら、伝統工芸を伝承・発展させるためには、様々な伝統工芸に内包された文化的背景、技芸、造形要素と造形原理の特色などについて理解を深める工芸美術教育が重要になってくる。そこで、国際様式のデザインのような普遍的な特質と地域固有の文化的特質を備える工芸美術教育について検討する必要がある。このような工芸美術教育は「中国伝統工芸の現代化への適応」を可能とするものだと考えられる。

本論文は、現代において中国伝統工芸の伝承・発展をいかにして実現するかという問題意識から、伝統工芸教育に関する研究を中心とし、研究対象を農村職業学校工芸美術教育に置き、普遍的な特質を持つデザイン教育理念・方法を、中国の国情と地域固有の文化に融合し、中国伝統工芸に根をおろした独自の「中国伝統工芸の現代化への適応」を実現できる工芸美術教育について考察す

る。

このような工芸美術教育を考察するために、中国伝統工芸の伝承・発展と農村職業学校工芸美術教育の関係を検討し、また、農村職業学校工芸美術教育における中国伝統工芸の伝承・発展が直面している課題を解決する方策を明らかにすることを研究目的とする。

本論文の構成及び主な内容と研究結果は以下の通りである。

第１章では、デザインとは何か、工芸とデザインはどのような関係を持っているか、国際様式のデザインのような普遍的な特質を有する工芸美術教育はどのようなものであるべきかについて検討する。

第２章では、伝統工芸とは何かを究明し、中国伝統工芸の歴史的変遷を述べると同時に、中国伝統工芸が伝承・発展において直面している三大課題についても考察する。

第３章では、日本の伝統工芸などの伝統文化の保護と発展に重要な役割を果たしている柳宗悦の民芸研究の思想を論じた上で、その研究が中国伝統工芸の伝承・発展への示唆となることについて検討する。

第４章では、中国現代工芸美術教育の発展過程を述べる。また、中国現代工芸美術教育の発展に大きく影響を与えた日本の美術教育、ヨーロッパにおけるデザイン運動及びドイツのバウハウス運動の理念を論じた上で、それらが中国現代工芸美術教育に対してどのように影響したかを考察する。それらを通して、中国現代工芸美術教育の形成及び発展の状況を明らかにする。

第５章では、中国の学校教育制度、職業教育、美術教育とその分類について整理し、中国農村職業学校工芸美術教育の発展状況、特徴及び教育課程の構造について述べる。そうした中国現代工芸美術教育に属する中国農村職業学校工芸美術教育はどのようなものであるかを明らかにする。

第６章では、中国伝統工芸の伝承・発展という視点から、伝統工芸の伝承・発展における農村職業学校工芸美術教育の利点について考察する。さらに、浙江広厦建設職業技術学院の木彫工芸人材育成の事例、龍泉中等職業技術学校の青磁・宝剣人材育成の事例を挙げる。その上で、中国伝統工芸の伝承・発展と農村職業学校工芸美術教育の関係を明らかにする。

第７章では、基礎と専門の相互関連、個性ある教育課程の編成、伝統工芸の視覚言語の発掘という三つの面から、農村職業学校工芸美術教育における中国伝統工芸の伝承・発展の三大課題を解決する方策について検討を行う。

本論文の結論は以下の通りである

強い地域密着性、専攻設置の多様化と個性化の特徴を有する農村職業学校工芸美術教育は、改革開放以降、経済の急速な発展に伴って進展し、中国現代工芸美術教育を豊かにしてきた。伝統工芸の伝承・発展の面で、農村職業学校工芸美術教育は、農村部から離れた都市の芸術大学、美術大学、職業学院などの工芸美術教育より、高い優位性を有している。この優位性は次の二つである。①伝統工芸の発祥地における人材育成は、伝統的な技術の習得において有利である。②伝統工芸の誕生地における人材育成は伝統工芸に内包された文化の理解において有利である。

また、①創造性を有する工芸美術人材を育成すること、②地域的特徴を強化すること、③伝統工芸と現代生活を融合することという中国伝統工芸の伝承・発展の三大課題を解決するために、農村職業学校工芸美術教育は、基礎と専門の相互関連、個性ある教育課程の編成、伝統工芸の視覚言語の発掘という三つの面を強化する必要がある。このような工芸美術教育は普遍的な特質を持つデザイン教育理念・方法を、中国の国情と地域固有の文化に融合し、中国伝統工芸に根をおろした独自の「中国伝統工芸の現代化への適応」を実現できるものである。

（様式９）

学位論文審査の概要と結果

報告番号	東アジア博 甲 第 106 号	氏　名	鐘　朝芳
論文題目	工芸美術教育における中国伝統工芸の伝承・発展に関する研究 －農村職業学校工芸美術を巡って－		

（論文審査概要）

鐘朝芳の論文は中国における伝統工芸の伝承と発展のための教育について、中等教育と高等教育の農村職業学校での工芸美術教育の問題点を認識し、その解決策を明らかにしたものである。論文の構成は、序章と７章、終章からなっている。以下はその内容である。

序章では問題の所在について述べている。中国工芸美術教育の現状を、中国の工芸美術観と工芸美術教育思想、教育課程研究、伝統工芸教育のそれぞれについて、先行研究を渉猟しながら述べている。

第１章では、工芸・デザインとその教育について、デザインの定義と理念、それらが構築されたヨーロッパのデザイン運動として、アーツ・アンド・クラフツ運動、アール・ヌーボー、ドイツ工作連盟、アール・デコの内容を述べている。さらにデザイン教育の理念としてバウハウスの運動と教育内容を述べている。

第２章において、中国の伝統工芸について、歴史的変遷、デザインとの関連を述べている。そのことから、李硯祖の先行研究で指摘した内容と、これまでに行ってきた鐘自身の調査研究での問題意識を加味して、中国における伝統工芸の現代的課題として、創造的人材育成、地域性の導入、現代性への適応の３つを提起している。

第３章では、伝統工芸の考察のために、日本の民藝運動について述べている。柳宗悦の民藝運動の理念、民藝運動の実践的活動、民藝運動の問題点、民藝理論への批判を述べて、中国の伝統工芸の伝承・発展との関連を明らかにしている。

第４章では、中国の現代の工芸美術教育の形成と発展について述べている。中国の現代の工芸美術教育の発展の変遷と、日本の美術教育の影響について明らかにしている。さらに、現代の美術教育に世界的に大きな影響を及ぼしているバウハウスの運動と中国への影響、受容を述べて、中国の現代の工芸美術教育の内容を明らかにしている。

そして、第５章において、中国農村職業学校の工芸美術教育の発展の状況を述べている。中国の学校教育制度における農村職業学校での工芸美術教育の位置づけ、発展状況、特徴を述べて、高等教育と中等教育に分けて、工芸美術教育の教育課程の指導要領に基づいて、教育課程の構造を明らかにしている。

第６章では、中国の伝統工芸の人材育成と農村職業学校の工芸美術教育との関わりを、実態調査を基に詳細に述べている。都市での職業教育と農村部での職業教育の相違点、農村部での利点などを指摘している。さらに浙江省での具体的な実態調査を通して、工芸美術の人材育成と教育課程、教育内容を述べて、伝統工芸の伝承と発展のための、職業教育での工芸美術教育の意義と役割を明らかにしている。

このことを受けて、第７章では、中国の伝統工芸における問題の解決の方策として、創造的人材の育成のために教育課程における基礎と専門の相互関連の強化、地域の特色を活かした専攻の設置と個性ある教育課程の編成、伝統工芸における視覚言語の発掘の３点を挙げて明らかにしている。

終章では、結論と今後の問題点を述べている。本論文の結論として、農村職業学校の工芸美術教育は、改革開放以降、経済発展に伴って進展し、中国の現代の工芸美術教育を豊かにしてきた。それは強い地域との密着、特色ある専攻の設置によって伝統文化の伝承に寄与してきた。また、多様化と個性化を進めて、現代生活への適合や融合を考慮することで伝統工芸の発展と連携してきた。農村職業学校の工芸美術教育は、都市部での美術教育と違う優位性を持っており、一つ目は伝統工芸の発祥地における人材育成は伝統的な技術の習得において有利であること、二つ目は、伝統工芸の発祥地での人材育成は伝統工芸に内包された文化の理解に有利であることを明らかにした。さらに今後の問題点としては、この研究がマクロの視点からの教育課程の研究にとどまっているので、この観点から個々の研究を進める必要があることを提案している。

この論文について、審査委員会は以下のように判断した。

1　創造性

本論文は中国の農村職業学校の工芸美術教育について、先行研究で指摘されている問題点を、本人自身の実態調査を通して確認し、調査と分析において、今までに無かった観点や試みを通じて現代の問題を明らかにして、解決を行った点は新奇性があり、自覚的に論文を進めているといえる。論文の創造性の観点としては博士論文の条件を達成していると判断した。

2　論理性

問題的から結論を導くための論文の構成は論理的であり、一貫性がある。論理性の観点では全体として達成できていると判断した。

3　厳格性

先行研究が少ない分野であるが、中国における教育制度、工芸美術教育の研究、伝統工芸の研究など、本論文の内容の基盤となっている分野の先行研究を渉猟して、論証している。厳格性については全体として優れていると判断した。

4　発展性

研究自体が少ない分野であり、マクロの観点から研究を進めながら、具体的な実践例を考察している。今後、この論文で得られた観点や方法については、中国で発展する可能性が見られる。このことについては、全体として達成されていると判断した。

以上のことから本論文を博士論文として合格とした。

論文審査結果
合・否

審査委員　主　査　（氏 名）福田隆眞

（氏 名）坪郷英彦

（氏 名）石井由理

（氏 名）＿＿＿＿＿＿＿＿ ㊞

（氏 名）＿＿＿＿＿＿＿＿ ㊞